

文化庁訪問時の市長発言骨子

平成 31 年 4 月 25 日

- 「現天守閣の解体に係る現状変更申請書類」について、文化庁調査官が細部にわたって目を通してください、多数のご助言をいただいた。お陰で先週金曜日に、申請書類を提出することができたことに対しお礼。
- 今後、文化審議会でご審議をお願いすることとなるが、現天守閣は Is 値が極めて低く危険な状態である一方で、天守台石垣を適切に保存・修復するためにも、現天守閣の解体が必要。是非お認めいただきたい。
- 私は、この間、京都市長と共に、文化芸術立国実現のために、新・文化庁の機能・組織体制の強化と予算の大幅な拡充などを求める提言を指定都市全体で取りまとめた。また、今国会の衆議院文部科学委員会において、本市が取り組んでいる全市立中学校に常勤のスクールカウンセラーを配置していることに対し、初等中等教育局長から「全国的に見ても大変先駆的な取組み」と答弁いただくなど、全国の地方自治体の中で日本の文部科学行政の最大の理解者であり、今後も先頭に立ってチャレンジしていく所存である。
- オーセンティシティに関する奈良ドキュメントが示す「部材が替わってもオーセンティックと見なす」というグローバルスタンダードの見地からも、文化庁が示す「史跡等における歴史的建造物の復元に関する基準」においても、名古屋城天守閣の木造復元は、戦後再建された他城郭にとって、今後のリーディングケースとなる。
- 天守閣の木造復元については、230 万名古屋市民の願いであると同時に、国の政策に呼応し「文化財を保存優先から理解促進、そして活用へ」を高いレベルで具現化するもの。海外から多くのお客様をお迎えし、文化・観光によって日本の発展の原動力にする決意である。
- 天守閣の木造復元については、文化庁の技術的助言を更に受けながら丁寧にも丁寧な対応に心がけ、名古屋城本丸御殿と共に、世界に誇る日本一の近世城郭の整備をすることに不退転の決意で取り組んでいくので、是非、ご理解いただきたい。

名古屋城天守閣の木造復元に関する現天守閣の解体

◇ 要点

現天守閣は、昭和 34 年の竣工から 60 年が経過し、Is 値が 0.14 と極めて低く、コンクリートの中性化も進行し外壁のモルタルが剥落するなど危険な状態である。また、天守台穴蔵部分の石垣が改変されており、天守台石垣を適切に保存・修復していくためにも、現天守閣を解体した上で、穴蔵石垣の発掘調査を行い、その現況を正確に把握する必要があるため、現天守閣の解体をお認めいただきますようお願いいたします。

◇ 文化庁からご指摘いただいた留意事項への対応状況

留意事項

- ①現天守を解体する理由（現天守解体の必要性・妥当性）
 - *耐震診断結果の詳細な説明、耐震補強では十分でない理由、現天守に係る沿革と内容に関する情報の整理、現天守の記憶保存等に関する措置
- ②現天守解体の具体的な工事内容（工事用仮設の具体的な内容を含む。）
 - 具体的な工法・工程等
- ③②に関連して、現天守の解体・除去工事が文化財である石垣等に影響を与えない工法であり、その保存が確実に図られること。
 - *石垣部会の意見を付すこと
- ④石垣等保全の具体的方針
 - *石垣部会の意見を付すこと
- ⑤石垣等詳細調査の具体的な手順・方法等（石垣調査計画）
 - *石垣部会の意見を付すこと

対応状況

調査官から細部にわたって、ご指導いただき、先週 4 月 19 日（金）に現天守閣の解体にかかる現状変更許可申請書を提出させていただいた。

◇ 今後の方針

- (1) 文化庁の技術的な助言を更に受けながら、現状変更許可の見通しを立てるとともに、株式会社竹中工務店との協議も進め、2022 年 12 月竣工に向けて、史実に忠実な天守閣の木造復元に取り組み、本丸御殿とともに近世城郭の姿を現代に伝える「特別史跡名古屋城跡」の本質的価値の継承・理解促進を図り、世界に誇る日本一の近世城郭の整備を進める。
- (2) 技術提案交渉方式による優先交渉権者である株式会社竹中工務店と市議会での議決を経て、総事業費 505 億円を上限とする基本協定を締結し、基本設計を終え、事業を進めている。また復元に必要な木材の調達を始めている。
- (3) 木造復元工事においては素屋根を設け、復元過程を公開し、市民のみならず日本中ひいては世界中の方に大規模木造建築物が復元される過程をご覧いただくとともに、宮大工等による伝統技術や保存修復技術等を目の当たりにしていただくことで、技術の伝承を含め、名古屋城の文化的価値を発信し、観光的側面との両面効果を次世代へと継承していく。

名古屋城を核とした観光戦略

◇ 国宝第 1 号であったが故の詳細図面による忠実な復元が可能な唯一の城

- 天守閣木造復元により、本物の石垣を含む特別史跡そのものの価値や魅力が最大限に活かされる。
- 在来工法による復元過程そのものが日本古来の文化であり、観光資源となる。



◇ 国の政策に呼応し、文化・観光によって日本の発展の原動力となる

文化芸術基本法 改正文化財保護法 文化経済戦略 明日の日本を支える観光ビジョン

- 魅力ある公的施設を広く国民、世界に開放
- 文化財を保存優先から理解促進、そして活用へ
- 文化への投資が持続的になされる仕組みづくり
(ユニークベニュー、民間資金の活用等)
- 訪日外国人旅行者数 2020 年 : 4,000 万人 ⇒ 2030 年 : 6,000 万人
- 訪日外国人旅行消費額 8 兆円 ⇒ 15 兆円

国の施策・方針を高いレベルで実施

《名古屋城における取り組み》

- ▽近世城郭御殿の最高傑作と称えられる本丸御殿の完成公開（平成 30 年 6 月 8 日）
- ▽江戸時代の絵師たちの伝統的な画法に則って重要文化財障壁画の復元模写制作（継続）
- ▽重要文化財障壁画の本物展示、デジタル模写制作（継続）
- ▽重要文化財である障壁画を本丸御殿内で公開（平成 25 年度から実施）
- ▽金シャチ横丁の開業（正門側義直ゾーン、東門側宗春ゾーン、平成 30 年 3 月 29 日）
- ▽重要文化財等展示収蔵施設の新設（2020 年度供用開始予定）
- ▽名古屋城天守閣寄附金「金シャチ募金」を創設
(本物の庶民募金で約 2 年、3 億 4 千万円余。約 8 割が名古屋市民からの募金)
- ▽ユニークベニューとして、本丸御殿饗應御膳、野外オペラ公演、プロジェクトマッピング等
- ▽入場者数の増加 2018 年度 : 約 221 万人（過去 3 番目）
- ▽名古屋城調査研究センターを設置（平成 31 年 4 月）服部英雄所長：現くまもと文学・歴史館長

◇ 名古屋市は、名古屋城を核とした観光戦略を策定

【名古屋市観光戦略】 H31. 3. 29 策定

基本理念：世界中の人が行き交う交流都市・名古屋へ

目標 値：■名古屋城の入場者数

190 万人 ⇒ 422 万人（2023 年）
(2017 年の 2.2 倍)

■観光入込客数

(延べ人数) 6,863 万人 ⇒ 1 億人（2023 年）
(実人数) 4,575 万人 ⇒ 7,000 万人（2023 年）
(2017 年の 1.5 倍)

— 名古屋城本丸御殿と天守閣の木造復元が、特別史跡を輝かせる —
ぜひ、現天守閣の解体をお認めいただき、
その先の名古屋城天守閣の木造復元を進めさせていただきたい。